

# センサーチップ選択ガイド



Sensor Chip CM5

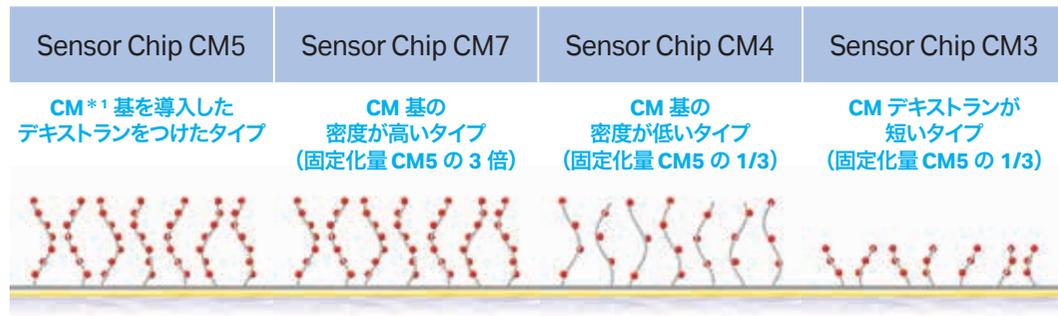


Series S Sensor Chip CM7

Biacore で相互作用を研究するためには、相互作用の一方の分子 (リガンド) をセンサーチップ表面に固定化します。固定化はリガンドをセンサー表面に直接カップリングする方法、または表面にあらかじめカップリングされたキャプチャー分子を介した間接的なキャプチャー法のいずれかでを行います。

固定化する分子の種類および解析の内容によって最適なセンサーチップを選択することができます。リガンド分子の固定化量は、濃度測定および特異性解析の場合には固定化量が多い方がよく、一方、カインेटクス解析では固定化量をなるべく少なくすることをおすすめします。

2種類の形状の異なるセンサーチップがあります。お使いの Biacore に合ったセンサーチップをお選びください。



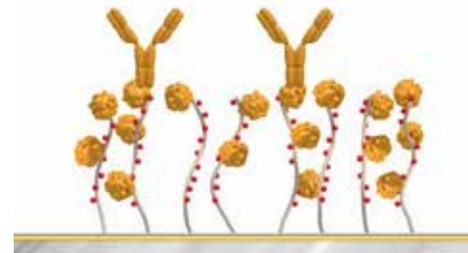
固定化する分子	Sensor Chip CM5	Sensor Chip CM7	Sensor Chip CM4	Sensor Chip CM3
タンパク質	アミノ基、チオール基、アルデヒド基およびカルボキシル基を介した固定化	アミノ基、チオール基、アルデヒド基およびカルボキシル基を介した固定化	夾雑物が正電荷を持つ場合 アナライトが電荷を持つ場合	アナライトが巨大な場合 アナライトがデキストランと結合する場合
タグ付タンパク質	タグ付きのタンパク質を抗タグ抗体を介して間接的に固定化			
膜結合分子				
核酸	アミノ基で修飾されている分子の場合		夾雑物が正電荷を持つ場合 アナライトが電荷を持つ場合	アナライトが巨大な場合 アナライトがデキストランと結合する
糖質	アルデヒド基を介して固定化する場合		夾雑物が正電荷を持つ場合 アナライトが電荷を持つ場合	アナライトが巨大な場合 アナライトがデキストランと結合する

\* 1 カルボキシメチル基

## 哺乳動物由来抗体のキャプチャー用センサーチップ

### Sensor Chip Protein A

human IgG<sub>1</sub>, IgG<sub>2</sub>, IgG<sub>4</sub> の捕捉が可能です。human IgG<sub>3</sub> には結合しません。カインेटクス/アフィニティー解析や CFCA を含む濃度定量にお使いいただけます。



### Sensor Chip Protein G

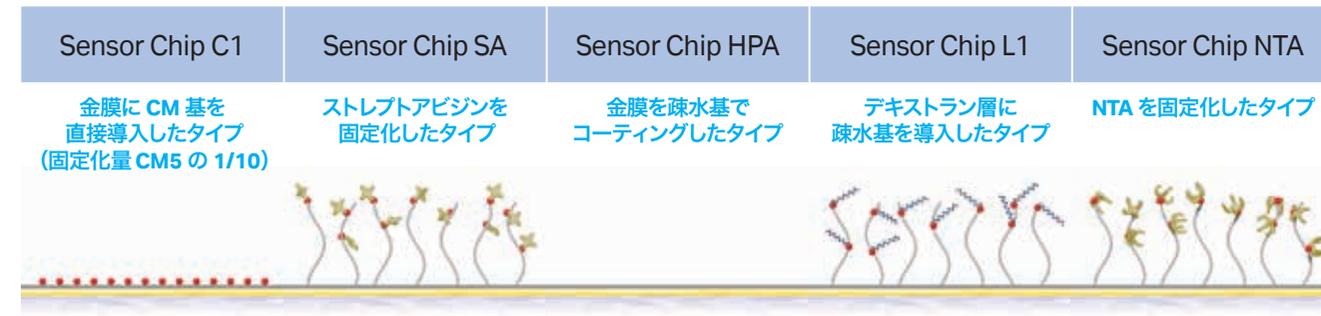
human、rat、mouse、rabbit、goat、cow 等のさまざまな哺乳動物由来の IgG の捕捉が可能です。

chicken IgG および human IgA、IgD、IgE、IgM には結合しません。カインेटクス/アフィニティー解析や CFCA を含む濃度定量にお使いいただけます。

### Sensor Chip Protein L

ヒトまたはマウス由来の Fabs、single-chain variable fragments (scFv)、domain antibodies (dAbs) の捕捉が可能です。濃度定量や yes / no スクリーニングにお使いいただけます。

抗原結合に伴い、ベースラインドリフトが生じることがあるため、カインेटクス/アフィニティー解析にはおすすめしません。



固定化する分子	Sensor Chip C1	Sensor Chip SA	Sensor Chip HPA	Sensor Chip L1	Sensor Chip NTA
タンパク質	アナライトが巨大な場合 アナライトがデキストランと結合する場合	ビオチン化されている場合*2			
タグ付タンパク質					His- タグタンパク質を固定化*3
膜結合分子			脂質単分子膜に組み込んで固定化	脂質二重膜に組み込んで固定化	
核酸	アナライトが巨大な場合 アナライトがデキストランと結合する	ビオチン化されている場合			
糖質	アナライトが巨大な場合 アナライトがデキストランと結合する	ビオチン化されている場合*2			

この表は Biacore システム発売以来の多くの研究者によるさまざまなタンパク質相互作用研究にもとづいて作成されました。

\* 2 繰り返しビオチン化サンプルの固定化ができる Biotin CAPture Kit も使用可能

\* 3 抗 His 抗体を使用する固定化も可能 (His Capture Kit)